

インドレポート

1 この研修プログラム全体について

私はこの研修プログラムで、インドの人たちと話をする経験と、日本とは違うインドの街並みや、インドでの『普通』を知ることができました。とても多い交通量と、日本とは違う交通事情。鳴り止まないクラクション。大学生の高い英語力。日本の言葉にはインドの言葉から強く影響していることも知りました。アユルベーダという自然の中の医療。人々が陽気なこと。遊びが大好きなこと。インドのおもてなし、ホスピタリティ。雄大な自然とそれに溶け込む仏教遺跡。マクドナルドで食べたチキンバーガー。ガネーシャの祭りの、朝のわくわく感と、夜は賑やかでありながら豪華な電飾と薄暗い場所の小さな電飾のコントラストをみたときのドキドキ感。お昼の市場を巡ったときの、日本と同じ野菜をみつけたときの嬉しさと、知らないものをみつけたときのおもしろさ。夜の雨の中、紅茶を買うために泥で靴を汚して歩いた時ですら、その幻想的な光景に驚きと、自分が今インドにいるのだという感動と、彼らの生活に足を踏み入れることができた喜びに満たされていました。そのときの幻想的な光景が、記憶に焼き付いています。

楽しかったことだけではありませんでした。馴染のない食事が一番苦労しましたし、インドの道に大量にあるゴミに驚き、川の濁りにも驚き、英語での意思疎通も難しかったです。

普通の旅行では得ることのできない経験をし、知ることができました。また、インドに住んでいる友達もでき、今でもフェイスブックでやりとりができるという私にとって財産となることもありました。

2 授業について

(1) ヨーガ

毎朝のヨガは楽しくもあり、辛くもありました。前で実演してくださる先生や、ボランティアの人たちの体の柔らかさに感心し、できない自分を歯がゆく思うこともありました。ヨガはとても、健康にいいと思います。ヨガをしている間は体が痛かったですが、気持ちのいいポーズもありました。ここで学んだことを、家でも試していきたいと思います。

(2) ヒンディー語

日本語の五十音でもなく、英語のアルファベットでもない文字を覚えることが楽しくもあり、難しかったです。ですが、デバーナーガリー文字も子音と母音の組み合わせという日本語と同じような文字だったので、興味深かったです。会話の授業の宿題の、全部がヒンディー語の問題は苦勞しました。毎晩眠気と戦いながら問題を解いたのは、いい思い出です。町にでて、ヒンディー語で書かれた看板に読める文字がある度に、嬉しかったです。まだ上手に書けませんが、文字の形も好きです。

(3) 英語

自分の力不足を痛切に感じました。しかし、先生方が毎回工夫を凝らしてくださって、とても感謝しています。全て英語で英語の授業を受けるというのは、私にとって珍しい体験でした。いつも以上に頭を使って、授業が終わると脳がヘトヘトでした。

(4) 経済・経営

インドの景気は今好況であること、人口ピラミッドがすばらしいことなどを学びました。インフレーションよりも成長率が高く、富の創造のためにグローバル・ハブを目指しているなど、日本以外の経済を聞くのは耳新しく、興味深かったです。需要が国内にあり、あれほど日本が影響を受けたリーマンショックを、インドは影響されませんでした。世界はアメリカの経済の影響を多く受けていると思います。その中で、影響を受けない状態にあるインドはすごいと思いました。

3 文化交流プログラムについて

文化交流プログラムはとても楽しかったです。驚くほどにぎやかな歓迎をしていただき、また一緒に踊ったりメンディを体験できたことは嬉しかったですし勉強になりました。インド人が一芸、二芸を必ずもっていることにも驚きました。毎日授業後にそれぞれ学部をみにいきますが、そこでは私達を快く受け入れ、英語があまり上手ではなくても、話しかけてくれる人はたくさんいました。学部紹介の中で学部ひとつひとつに図書館があることに驚きました。隅々まであますところなく案内していただきました。ガネーシャのお祭りのときは、授業でガネーシャの祭りについて教えていただきましたし、理事長の家にお

邪魔させていただきました。そこで、家庭ではどういう風にお祭りを行っているのかがわかりました。そして、理事長の病院の中も見せていただきました。まだ五か月だという赤ちゃんを抱かせていただきました。とても軽くて、目がパッチリしていて、顔立ちは赤ん坊のころから日本人とは違うのだとあらためて実感しました。これだけ歓迎していただいて、こちらも何かをお返ししなければと思うのは当然のことでした。去年も先輩方が踊られたソーラン節を練習し、モールで披露しました。ハプニングもありましたが、それゆえに皆必死に大きな声を出して踊れました。インドの方達が楽しんで少しでも楽しんでいただけたら嬉しいと思います。

4 遠足について

(1) ムンバイ

まず第一に、街並みが綺麗でした。ところどころにある建築物が洋風で、それが立ち並んでいる光景は綺麗でした。インド門はとても大きく、イギリスの女王を迎えるために建てたのだと説明を受けました。そこからみた海は濁っていて茶色で綺麗な海ではありませんでした。ガンジーの二番目の家にも行きました。思ったよりもガンジーの背が低かったことが、逆に本当にいた人なのだと実感させられました。教科書でしかみたことのなかった彼が生活していた場所。彼が住んでいた部屋には糸車が置いてありました。インドのお札は全てガンジーの顔です。彼がどれだけインドにとって偉大な人物なのか、尊敬されている人物なのかがよくわかりました。

(2) Karla Caves

仏教徒の人達があの岩をくり抜いた部屋で生活していたのかと思うと驚きでした。食料を得るのも大変だったのではないかと思います。部屋に入ってみましたがとても暗く、夜になれば怖かったでしょう。大きな柱がたくさんある部屋では、その部屋の大きさと柱の大きさと、彫刻、中央奥にあった塔が素晴らしかったです。冷たさを感じる厳粛な雰囲気と、その綺麗さには驚きました。塔の裏は真っ暗で、ここを回ってお祈りするやりかたは、日本にも似たようなものがあつたことを思い出させました。

5 ボランティアについて

事前に去年国際交流プログラムに参加されていた先輩からのアドバイスで日本の文化を紹介できる、折り紙やカルタ、お菓子などを持っていきました。しかし、私達をお世話してくださった今回のボランティアの方々はあまり日本に興味がある方たちではなかったようで、おみやげにもあまり興味がなかったように思われました。そのため、共通の話題を探すのに苦労しました。そして、私達が外を歩くときにはとてもお世話になりました。しかし、次の授業に遅れたりすることがしばしばあり、五分前集合を意識してほしかったです。しかし、常に私達を気遣い行動してくれていました。私達の願いをできるだけ叶えようと動いてくれていたこともわかりました。とても感謝しています。

6 その他（とくに来年度の参加者にとって参考になること、プログラムの改善など）

ボランティアの方たちは、プログラム参加者にとって一番長く行動を共にするインド人です。だからこそ、コミュニケーションや円満な関係は大事だと思います。来年のボランティアの方々には、日本に興味がある方たちのほうがいいとおもいます。また、来年にインドに行く方達には、何かパフォーマンスを必ず用意していたほうがいいと思います。